

大雨、強風対策について

平成25年4月5日

営農支援課

I 作物別の対策

1 早期水稲

(1) 事前対策

- ① 田植前の苗は、葉傷みや飛散物による苗の損傷がないよう管理する。
- ② 移植後の水田では、強風で苗の折損等がないよう深水管理を行う。
- ③ 除草剤散布直後の水田では、大雨での流出がないよう水尻や畦を補強する。

(2) 事後対策

- ① 苗箱で葉先枯れや折損が激しい場合は、葉先を刈り払って移植する。
- ② 移植後の水田で、葉傷みや苗の折損が著しい場合は、除草剤散布を使用適期の範囲内で遅らせる。
- ③ 除草剤散布は、薬剤の風下への吹き寄せや、水路等への飛散がないよう風が止んでから散布する。

2 特用作物（茶）

(1) 事前対策

- ① 直掛けにより摘採前被覆を実施している茶園では、強風による葉ずれを防止するため、一端被覆資材を除去し、強風が収まってから再度被覆する。
- ② 1～2年生の幼木園では、防風ネットを設置する。また、株元やマルチ資材への土寄せにより、株の揺れやマルチのばたつきを防止するとともに、排水対策を実施する。
- ③ 茶工場（煙突、屋根、雨とい、窓等）の点検・整備・補強を実施する。

(2) 事後対策

- ① 風雨による倒伏や地際部に損傷を受けた幼木園では、株元やマルチ資材への土寄せ、補修を実施する。
- ② 海からの風で塩分が付着したとみられる茶園では、塩分付着8時間以内にスプリンクラー等で散水（5 mm以上）し、塩分を除去する。
- ③ 滞水・浸食部分の速やかな排水処理と改修を実施する。

3 野菜

【栽培中の施設野菜全般】

(1) 事前対策

- ① ハウスバンドを点検し、ゆるみがないよう、しっかりビニルを押さえる。
- ② ビニル破損や隙間を点検し、破損箇所は早急に補修する。
- ③ ビニルの上から防風ネット等を被覆し、ハウスバンド等で固定すると強度は増す。
- ④ ハウス妻部には筋かいを入れて補強する。

- ⑤ 強風によりハウス倒壊の危険がある場合（25 m以上の風）は、押さえバンドを切ってビニルを除去する。
- ⑥ ハウスの周囲は滞水しないように排水溝等を整備する。
- ⑦ 防風ネットの設置してあるほ場においては、根石や支線の点検を行い風雨により強度が低下しないよう対策を講じる。
- ⑧ ハウス周囲を点検し、強風で飛びそうなものは片付けるとともに、燃料タンク等の付帯設備がしっかり固定されているかを確認する。

（2）事後対策

- ① 強風がおさまったら、直ちに換気を行い、補強で使用した防風ネット・寒冷紗等も除去する。
- ② ビニル破損等により生じた、傷害果や幼果は摘果して、草勢の回復を図る。
- ③ 湛水した場合速やかに排水を行う。
- ④ 草勢の低下や茎葉が損傷すると病害が発生しやすいので、登録農薬を散布する。
- ⑤ 速効性窒素肥料を成分で10 a 当り2～3 kg 施す。

【露地野菜類（トンネル栽培含む）全般】

（1）事前対策

- ① 強風、大雨が予想されるので、排水溝の整備やトンネル被覆されている場合はトンネルが剥げないように、バンドのチェックや被覆ビニルの補修を行い、低温にも対応する。

（2）事後対策

① かんしょ（トンネル）

ビニルが剥げた場合は、再度ビニルを貼って、明日以降の低温にそなえる。

冠水した場合は排水を促し、早く水が引くようにつとめ、風が治まって気温が上昇する場合は、換気を行う。

② スイートコーン、かぼちゃ（トンネル）

風が治まって気温が上昇する場合は、適宜換気を行う。

スイートコーン（トンネル）が強風で倒伏した場合は、風が治まったところで立て直す。支柱をたてて、ひもを張り倒れるのを防止する（倒れたままの状態にしない）。

かぼちゃは強風で茎葉が損傷した場合は殺菌剤を散布する。

③ ばれいしょ

強風により茎葉が損傷した場合は殺菌剤を散布する。

④ オクラ

苗立ち枯れ病が出やすくなるので、殺菌剤をかん注する。

4 果樹

【全果樹共通】

(1) 事前対策

①防風林・排水溝の整備を行う。防風林は、ある程度隙間がある方が効果が高いので、整備を行う。また防風ネットの根石や支線の点検を行い強度が低下しないよう対策を講じる。

※防風ネットは高さ3m以上必要。

②主枝・垂主枝の分岐点が裂けるおそれのある樹では、縄で8の字型に幾重にも縛っておく。

③高接ぎ更新を実施した園は、伸長した枝を支柱で固定し、折損を防止する。

(2) 事後対策

①枝折れ・枝裂けした所は切り取り・削り直しをして、大きな傷口には癒合剤を塗る。

②倒伏した幼木や若木は直ちに起こして、土寄せ、根締めをして支柱で固定する。

③強風により根際にすり鉢状の穴ができているものは、早めに土寄せをして根を保護する。また、敷草が飛散したものは、元通り敷き込み根の乾燥を防ぐ。

④落葉のひどいものには、日焼け防止のため、幹に保護剤を塗る。

【かんきつ】

(1) 事前対策

①幼木・若木は支柱を補強し枝葉をまとめて結束する。

②風ズレによる枝・葉・果実へのかいよう病の発生が予想されるので、銅水和剤等を散布する。

(2) 事後対策

①結束枝は、早めに解いて蒸れを防ぐ。

②落葉した場合、根の傷みが予想されるので、春肥は根を傷めないように何回かに分けて施用する。新梢発生後は、緑化促進と葉面積の確保のために葉面散布を実施する。

【なし・かき・くり、ぶどう等】

(1) 事前対策

①倒伏・幹折れの予想される木は三脚支柱を組む。なし、ぶどうの棚、なし

の多目的防災網及びわい化栽培においては、トレリス線、捨て線、くい通し線、周囲線・アンカー及び網の点検を行い、場合によっては補強を行う。

- ②なしは棚線への枝の結付けをよくして、枝揺れを防止する。かきやくりの若木は支柱を補強して枝ゆれや枝折れを防ぐ。

(2) 事後対策

- ①主枝・垂主枝等の太枝が裂けたものでも、癒合が期待されるものは傷口に癒合剤を塗布し結束する。回復が期待されないものは切除し切り口に癒合剤を塗布する。
- ②主幹部が折れたものは、その後に萌芽した中の2～3本の枝を育成する。台木から萌芽した場合は接ぎ木に備えて育成を図る。
- ③病気の発生に注意し、防除基準に準じて襲来後直ちに防除を実施する。

5 花き

(1) 事前対策

- ①排水溝の整備、防風ネットの設置を行う。
- ②マルチは土寄せ、市販止め具等によりしっかりとおさえ、風による剥がれを防ぐ。
- ③生育に応じて、支柱・ネット等で誘引・固定を実施し、茎葉の損傷を防ぐ。
- ④ほ場周辺の片づけを行い、飛来物による作物の被害を防ぐ。

(2) 事後対策

- ①湛水、冠水した場合は、速やかに排水を行う。マルチ栽培の場合はマルチをはがして畦を乾燥させる。
- ②茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。

【シキミ】

(1) 事前対策

- ①幼木は倒れる可能性があるので、支柱で固定する。

(2) 事後対策

- ②倒れた木、傾いた木は無理に起こすと根が切れて、枯死する場合があるので、段階的に起こして、正常な状態に戻す。

【施設・雨よけ花き全般】

(1) 事前対策

- ①防風ネットの設置を行う。
- ②草丈がある程度伸びたものは、支柱を補強し、誘引ネット等の張りを強化して倒伏を防止する。
- ③ハウス内のかん水チューブやスプリンクラー・ミスト施設は風で飛ばないように収納あるいは固定する。

(2) 事後対策

- ①茎・葉の損傷が発生した場合は、薬剤防除・液肥の葉面散布等を行う。
- ②電照や夜冷育苗等、電気機器を使用する品目では、機器が正常に稼働する

か点検・確認を実施する。

【ホオズキ】

(1) 事前対策

- ① 茎葉の損傷を軽減するために、支柱・ネットによりできるだけ株の固定を行う。
- ② ハウスのビニル被覆を剥ぐときに備え、防風ネット等で畦の周囲を覆う。

(2) 事後対策

施設花き全般に準ずる。

【コショウラン他、冷房ハウス等】

(1) 事前対策

- ① 長期停電に備え、自家発電等を用意する。
- ② 外部遮光等はハウス上部に巻き上げて固定する。

(2) 事後対策

- ① 落蕾等により停電した場合は冷房設定を再度確認する。
その他は施設花き全般に準ずる。